

市政記者クラブ 様

令和3年7月15日(木)
健康福祉局新型コロナウイルス
感染症対策部感染症対策室
担当(結核以外):中村、内田
(結核):加藤、増田
電話:972-2631(結核以外)
電話:972-2633(結核)

名古屋市感染症発生動向調査(令和3年6月分患者発生状況)について

本市では、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき、感染症発生動向調査を実施しています。

感染症発生動向調査とは、感染症のまん延防止を図るため、感染症に関する情報の収集、分析及び提供等を行う事業であり、その一環として、毎月、感染症発生件数等について情報提供を行っています。

1 6月の感染症発生状況(報告のあった疾病のみを記載)

(診断日で集計)

疾 病 名	令和3年6月	令和2年6月
◆一類感染症 (発生なし)	0件	0件
◆二類感染症 ・結核	36件	42件
◆三類感染症 ・腸管出血性大腸菌感染症	5件	7件
◆四類感染症 ・レジオネラ症	2件	4件
◆五類感染症(全数把握疾病) ・カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 ・クロイツフェルト・ヤコブ病 ・劇症型溶血性レンサ球菌感染症 ・後天性免疫不全症候群 ・侵襲性インフルエンザ菌感染症 ・侵襲性肺炎球菌感染症 ・梅毒 ・百日咳	6件 1件 3件 8件 1件 3件 20件 6件	7件 0件 2件 2件 2件 2件 21件 0件
◆五類感染症(定点把握疾病:第22週~第26週(5月31日~7月3日分)) ・報告数の多い疾病は、①RSウイルス感染症(1,172件:前月期比3.06倍)②感染性胃腸炎(805件:前月期比1.00倍)③A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(143件:前月期比1.79倍)の順となっています。		

2 トピックス

《腸管出血性大腸菌感染症》

腸管出血性大腸菌感染症は出血を伴う腸炎で、血清型によって「O157」、「O26」、「O111」などに分類されます。感染すると潜伏期間（平均3～5日）を経過した後に、大腸菌が産生する毒素（ベロ毒素）により、主に腹痛、水様性下痢及び血便を引き起こします。また、重篤な合併症である溶血性尿毒症症候群（HUS）を併発した場合は、死亡する事例も報告されています。

この疾病の感染経路は、菌に汚染された食品等を食べる場合のほか、患者の便や菌の付いたものに触れた後、手洗いを十分に行わなかった場合などに、人から人へ感染させることがありますので、以下のことに注意してください。

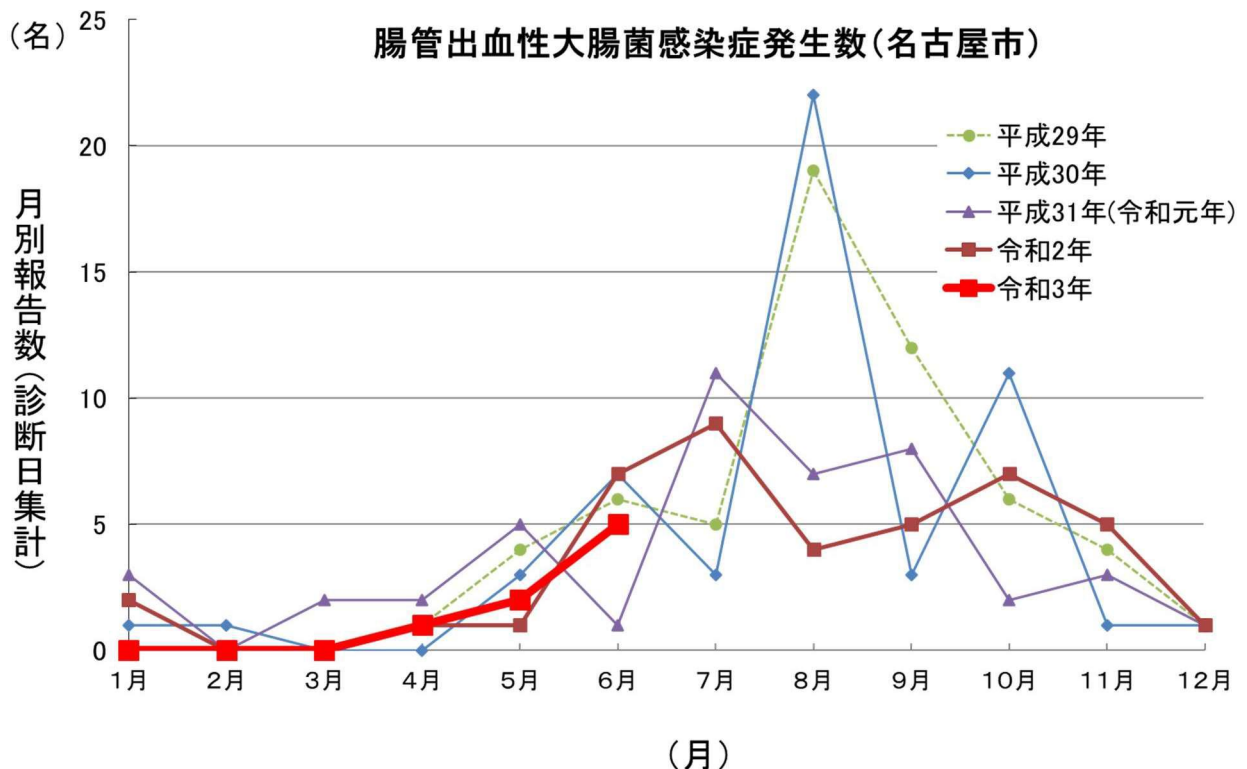
＜予防するには＞

- ・お肉の生食は避け、中心部まで十分に加熱（75℃で1分間以上）して食べてください。
- ・生野菜などはよく洗い、必要に応じて殺菌をしてください。
- ・調理器具は食材ごとに使い分け、よく洗い、熱湯などで消毒してください。
- ・調理前、食事前、トイレ後、おむつ替えの後は、石鹸等で十分に手を洗ってください。
- ・トイレのドアノブなど菌に汚染されやすい場所は、こまめに消毒をしてください。

＜早めの治療を＞

- ・自分の判断で薬を飲んだりせず、すぐに医師の診察を受けてください。
- ・特に子どもや高齢者の健康状態には、日頃から気をつけてください。

以下のグラフのとおり、例年夏期に患者の発生数は多くなりますが、季節に関係なく年間を通して発生しますので、注意が必要です。



3 病原体分離情報（令和3年6月検査分）


実施なし

病原体の検出、分離・同定については、名古屋市衛生研究所微生物部で実施しています。

名古屋市感染症発生動向調査情報（週報）

令和3年 第22週～第26週（5月31日～7月4日）

	小児科・インフルエンザ定点報告 (70医療機関)											眼科定点報告 (11医療機関)		基幹定点報告 (3医療機関)						合 計
	RSウイルス感染症	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌、髄膜炎定された場合を除く)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)	インフルエンザによる入院患者	
千種	94	-	9	6	61	3	3	-	7	-	2	-	1							186
東	78	-	1	6	15	-	-	-	3	2	-									105
北	133	-	5	1	60	-	1	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	204
西	355	-	12	79	101	3	-	1	15	-	-	-	2							568
中村	56	-	-	5	49	1	1	-	-	1	-	-	-							113
中	111	-	1	7	59	-	-	-	4	2	1									185
昭和	2	-	-	-	24	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	28
瑞穂	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-							2
熱田	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-							4
中川	78	-	17	14	109	-	10	-	-	22	1									251
港	-	-	-	8	61	-	-	-	-	-	-									69
南	89	-	6	4	41	-	-	-	-	-	-	-	-							140
守山	57	-	8	2	52	2	-	-	5	-	2									128
緑	15	-	1	5	86	2	-	3	13	1	-	-	-							126
名東	64	-	4	4	41	-	-	1	4	2	1	-	-							121
天白	38	-	1	2	46	1	-	1	5	-	-	1	-							95
合計	1,172	0	65	143	805	16	15	7	59	30	9	1	3	0	0	0	0	0	0	2,325
前月	383	1	55	80	801	7	7	1	60	22	8	0	2	0	0	0	0	0	0	1,427
前月比	3.06	0.00	1.18	1.79	1.00	2.29	2.14	7.00	0.98	1.36	1.13	-	1.50	-	-	-	-	-	-	1.63
昨年同月	4	0	24	95	358	8	24	5	68	15	13	0	0	0	0	0	0	0	0	614

注：  は、報告する医療機関がないことを表す。

名古屋市感染症発生動向調査情報（月報） 令和3年6月

	性感染症定点報告 (15医療機関)				基幹定点報告 (3医療機関)			合 計
	性感 染器 症 クラ ミジ ア	ウ性 イ器 ルヘル ス感 染症	尖圭 コン ジロ ーマ	淋菌 感 染 症	感黄メ 染色チ 症ブシ ドウ 球耐 菌性	肺ペ 炎ニ 球シ 菌リ 感 染耐 症性	緑葉 膿剤 菌耐 感 染 症	
千種	4	0	0	2				6
東								
北	26	3	5	14	0	0	0	48
西	4	4	0	0				8
中村	6	0	0	4				10
中	46	6	4	21				77
昭和	5	1	1	7	1	0	0	15
瑞穂	3	1	0	0				4
熱田								
中川	19	0	3	20	0	0	0	42
港	5	8	0	0				13
南	1	4	0	0				5
守山								
緑	6	2	1	8				17
名東	4	0	0	0				4
天白	2	2	1	2				7
合計	131	31	15	78	1	0	0	256
前月	93	24	13	65	4	0	0	199
前月比	1.41	1.29	1.15	1.20	0.25	-	-	1.29
昨年同月	95	19	14	34	1	0	0	163

注 は、報告する医療機関がないことを表す。

6月分患者報告数	
週報分	2,325
月報分	256
合 計	2,581

令和3年 6 月の一～三類感染症発生状況

	疾 病 名	令和3年6月	令和3年計	令和2年計	平成31年(令和元年)計
		患 者 数	患 者 数	患 者 数	患 者 数
一類感染症	エボラ出血熱	-	-	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	痘そう	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	-
	ペスト	-	-	-	-
	マールブルグ病	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-	-
二類感染症	急性灰白髄炎	-	-	-	-
	結核	次ページ参照			
	ジフテリア	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。)	-	-	-	-
	中東呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。)	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ (H5N1) 鳥インフルエンザ (H7N9)	-	-	-	-
三類感染症	コレラ	-	-	-	-
	細菌性赤痢	-	-	-	4
	腸管出血性大腸菌感染症	5	8 (1)	42 (5)	45 (10)
	腸チフス	-	-	-	1
	パラチフス	-	-	-	1
	合 計	5 (0)	8 (1)	42 (5)	51 (10)

注1 一～三類感染症を診断した場合は直ちに届出が必要。

注2 ()内は無症状病原体保有者の再掲。以下同じ。

腸管出血性大腸菌感染症の内訳

菌 型	令和3年6月	令和3年計	令和2年計	平成31年(令和元年)計
	患 者 数	患 者 数	患 者 数	患 者 数
O157	3	6 (1)	19 (1)	28 (5)
O26	1	1	10 (2)	5 (1)
O103	-	-	4 (1)	2 (1)
O111	1	1	3	-
O121	-	-	1	-
O145	-	-	2	6 (2)
O165	-	-	-	1
O166	-	-	-	1
その他	-	-	3 (1)	-
型 不 明	-	-	-	2 (1)
合 計	5 (0)	8 (1)	42 (5)	45 (10)

結核 新登録患者発生状況（月報）

令和3年6月

保健センター名	令和3年6月（※）			令和3年計（※）			令和2年計（※）			平成31年・令和元年計		
	活動性結核		（別掲） 無症状病原体 保有者	活動性結核		（別掲） 無症状病原体 保有者	活動性結核		（別掲） 無症状病原体 保有者	活動性結核		（別掲） 無症状病原体 保有者
	総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数	
千種	2	1	1	7	3	8	28	14	3	22	9	6
東	2	0	0	7	1	2	6	1	5	19	9	5
北	1	0	1	8	3	2	27	10	6	29	9	11
西	4	2	0	12	5	5	26	9	6	21	5	8
中村	4	1	0	10	4	5	36	11	8	28	15	23
中	0	0	1	12	2	10	24	11	9	26	9	10
昭和	2	1	0	10	6	3	18	7	7	11	5	5
瑞穂	1	1	1	4	2	4	24	6	4	19	9	13
熱田	1	0	0	6	0	0	17	6	2	7	5	7
中川	5	0	3	25	6	10	39	11	6	49	15	16
港	0	0	0	9	2	2	32	12	8	30	7	13
南	1	1	2	11	2	6	23	9	5	42	18	7
守山	2	2	0	9	3	4	21	6	5	30	8	10
緑	2	0	0	14	8	4	23	7	13	34	12	21
名東	0	0	0	8	4	2	21	10	5	29	11	10
天白	0	0	0	9	5	3	19	8	4	26	13	11
全市	27	9	9	161	56	70	384	138	96	422	159	176

※ 令和2年・令和3年の数値は暫定値です。（平成31年（令和元年）の数値は確定値です。）

四類感染症（44疾病）

疾 病 名	令和3年6月		令和3年計	令和2年計	平成31年(令和元年)計
	患 者 数	備 考	患 者 数	患 者 数	患 者 数
E型肝炎	-		1	3	3
A型肝炎	-		-	4	5
チクングニア熱	-		-	-	3
つつが虫病	-		-	-	1
デング熱	-		-	3	9
マラリア	-		-	-	1
レジオネラ症	2		11	27	40
合 計	2		12	37	62

注1 四類感染症を診断した場合は直ちに届出が必要。

注2 44疾病のうち、過去3年に報告のあった疾病のみを記載。

五類感染症全数把握（24疾病）

疾 病 名	令和3年6月		令和3年計	令和2年計	平成31年(令和元年)計
	患 者 数	備 考	患 者 数	患 者 数	患 者 数
アメーバ赤痢	-		4	15	21
ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く。)	-		B型: 1 - -	B型: 1 - その他: 2	B型: 3 - その他: 1
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	6		24	49	57
急性脳炎*	-		1	8	3
クロイツフェルト・ヤコブ病	1		2	3	20
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3		21	25	2
後天性免疫不全症候群	8	無症候性キャリア: 6 AIDS: 2	無症候性キャリア: 27 AIDS: 13 -	無症候性キャリア: 49 AIDS: 10	無症候性キャリア: 55 AIDS: 17 その他: 1
ジアルジア症	-		-	1	1
侵襲性インフルエンザ菌感染症	1		5	11	14
侵襲性髄膜炎菌感染症	-		-	1	5
侵襲性肺炎球菌感染症	3		22	47	94
水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)	-		-	10	7
梅毒	20	早期顕症梅毒: 13 晩期顕症梅毒: 1 - 無症候梅毒: 6	早期顕症梅毒: 67 晩期顕症梅毒: 9 先天梅毒: 2 無症候梅毒: 23	早期顕症梅毒: 112 晩期顕症梅毒: 3 無症候梅毒: 52	早期顕症梅毒: 132 晩期顕症梅毒: 6 無症候梅毒: 74
播種性クリプトコックス症	-		-	3	4
破傷風	-		1	-	2
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-		-	1	-
百日咳	6		16	51	270
風しん	-		-	検査診断例: 7	検査診断例: 27
麻しん	-		-	-	検査診断例: 7 修飾麻しん: 3
合 計	48		239	461	856

※ ウェストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

注1 五類感染症全数把握(侵襲性髄膜炎菌感染症、麻しん及び風しんを除く)を診断した場合は7日以内に届出が必要。

注2 24疾病のうち、過去3年に報告のあった疾病のみを記載。

参考資料

感染症の類型及び定義（感染症法）

類型	定義
一類感染症 (7 疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症
二類感染症 (7 疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症
三類感染症 (5 疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起し得る感染症
四類感染症 (44 疾病)	人から人への感染はほとんどないが、動物、飲食物等の物件を介して感染するため、動物や物件の消毒、廃棄などの措置が必要となる感染症
五類感染症 (全数：24 疾病) (定点：24 疾病)	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症
新型インフルエンザ等感染症 (4 疾病)	<p>【新型インフルエンザ／新型コロナウイルス感染症】 新たに人から人に伝染する能力を有することとなったウイルスを病原体とするインフルエンザ／コロナウイルス感染症であって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの</p> <p>【再興型インフルエンザ／再興型コロナウイルス感染症】 かつて世界的規模で流行したインフルエンザ／コロナウイルス感染症であってその後流行することなく長時間が経過しているものが再興したものであって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの</p>
指定感染症	既知の感染症の中で上記一～三類及び新型インフルエンザ等感染症に分類されない感染症において一～三類に準じた対応の必要が生じた感染症（政令で指定）
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既知の感染性と症状等が明らかに異なり、その伝染力及び罹患した場合の重篤度から判断した危険性が極めて高い感染症

(令和3年6月30日時点)